

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 3 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200221		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	みのりグループホーム川内		
所在地	広島市安佐南区川内1丁目22-55		
自己評価作成日	平成30年2月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200221-00&PrefCd=34&VersionCd=
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東 4丁目11番13号
訪問調査日	平成30年3月15日（木）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居施設としての役割を担いつつ、施設らしくない施設を目指しています。ご本人が大切にしてきた「人」「モノ」「場所」を私たちも同じように大切にすることを「こだわり」に「こだわる」という言葉で目標にしています。介護する側、される側だけの世界や、すべてが管理された空間ではなく、横の繋がりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

みのりグループホーム川内は住宅街にあり、周りにはまだ少し畑がりのどかである。日常のかかわりの中で利用者に常に寄り添い、利用者の言葉や喜怒哀楽の表情等を介護記録に記録し思いや意向に努めている。利用者の状態の変化や思いや願いは、6ヶ月毎に見直して介護計画に活かすように取り組んでいる。職員は、利用者がどのように暮らしたいのか、何をされたいのか等の思いを把握し、これまでの暮らしの中で親しんで来られた事を活かして、利用者一人ひとりのしたい事や出来る事を活かして楽しみ毎や活躍できる場面作りをしていて、張り合いや喜びのある毎日が過ごせるように笑顔で支援している。かかりつけ医・看護師と職員との連携が日常的に図られており緊急の際も24時間対応している。利用者の健康管理についての体制の整備がある事により、利用者だけでなく職員も安心して日頃の支援に集中できる体制が出来ている。

みのりグループホーム川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎週月曜日に職員と理念を唱和している	地域密着型サービスの意義をふまえた法人理念「家庭的な雰囲気大切に、ゆつくり楽しく明るい笑顔を心掛けましょう」を理念として事務所に掲げ、毎週月曜日に職員は唱和し、理念の共有実践につなげている。又、会議や朝礼時に理念について話し合い共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議以外でも地域の行事に出かけたり、地域のサロンでは講師として招かれている。	町内会に加入しており、町内清掃に職員・利用者と共に参加し交流している。町内会行事のどんどや盆踊り・近隣の特養の祭りに参加している。又、民生委員・町内会長・ふれあいの合同主催の認知症カフェに参加している。近隣の農家さんから野菜を安価で購入し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年3回程度、地域サロンにて認知症講座を開いている。又、民生委員などからも認知症の相談があれば、その都度行動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、地域のことなど話し合われている。その中から認知症カフェを実施したこともある。	運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、町内会会長・老人会会長・民生委員・他事業所職員・管理者・職員が出席し、利用者の状況や活動状況、職員の研修状況、ヒヤリハット、事故報告、外部評価調査結果状況、火災訓練等の報告や意見交換し話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加依頼をしていますが、参加が見受けられないので、今後日程調整等行い是非とも参加される事を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の講座に招かれる事が多く、その時に実践報告等、伝えている。又、毎年中学校への認知症講座を共同で開催している。	提出書類等を持参したり、電話で不明な点を相談したり、協力関係を築くように取り組んでいる。認知症講座の講師として活躍している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎年、身体拘束などの虐待研修を行っている。又、拘束などの実例もない。	事業所内研修と外部研修を受けており、伝達研修も実施している。具体的にどのような事が身体拘束に当たるのか正しく理解した上で、利用者の様子を見ながら制止する事なく、優しく声かけして一緒に行動する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	転倒の多い方に対しても、部屋の環境を整えることで対応している。		

みのりグループホーム川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人を立てられていたケースもあり、その都度説明し理解に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に見学をして頂き、その時に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの要望があれば、対応している。しかし外部へ表わしているかは不透明な点がある。	家族の来訪時や電話・運営推進会議等の機会に、意見や要望を聞いている。困り事にも利用者や家族の意向を充分に聞くよう心掛けている。又、家族がいつでも面会しやすいように配慮し、家族が意見や要望が言い易いように工夫している。	職員の退職等あり、個々人との意思疎通の時間を取れていないと感じられており、体制が整い次第実行される事を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議を設け、その時に意見があれば対応している。	毎月の職員会議や毎日の申し送り時や随時、行うミーティングで意見を聞いている他、日常の業務の中でも聞いている。職員からの提案で「ソーメン流しをしたい」との事で実際に竹を切り実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心が持てるよう整備をしているが、やりがいに繋がっているかは不透明である		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTを中心に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ネットワークや協会に入っており、意見交換出来ている。		

みのりグループホーム川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	部屋の配置や、モノなど馴染みの物を準備したり、出来る限り本人の横で寄り添うことをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とは入居前にしっかりと説明し、同意を頂くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	リスクを話し合い、単にリスク回避だけをするのではなく、ご本人の言動を見極めながら、ご家族にも相談している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	外出や散歩、釣りなどご本人の余暇活動と一緒に行うことで、関係を築きやすい環境を整えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎週自宅に帰られる方もおられたり、外食されるなど、ご家族からも協力頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	記憶が曖昧でも思い出の場所があれば、希望時には行っている	家族、親戚、友人、知人等の訪問時は歓迎し、なるべく面会に来て頂きたいという事をお願いしている。電話や手紙による交流を支援している。又、家族の協力を得て、一時帰宅やお墓参り・法事・喫茶店に行く等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一緒に共同作業を行ったり、入院されている時は一緒にお見舞いに行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	看取りが多く、他施設への退去が少ないが、サービスが終了しても関係は続いているケースもある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3ヶ月毎にカンファレンスを開催し、本人の意思や現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努め、アセスメントシートや個人記録の更新・追記し情報を共有している。意思表示の難しい方には、日々の様子を見て、利用者の思いを判断している。その人らしさを大切に、本人の気持ちにより添った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らしをご本人やご家族、担当のケアマネから聞き、なるべく入居後も生活が一変しない様工夫している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタル測定や食事量など特変に早期対応するよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスの時だけでなく、随時朝礼などで話し合っている	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画を見直している他、利用者の状態や要望に変化があった場合にはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録だけでなくケアノートを作成し、毎日確認しながらケアにあたっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	釣りや、その他趣味、昔の友達など会いに行ったり、墓参りもしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの方に来て頂いたり、昔からの友人に来て頂いたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月定期往診に来られたり、その都度相談している	入居時に、協力医の対応内容を細かく説明し、本人及び家族の意向でかかりつけ医を決めてもらっている。協力医療機関は月2回の往診がある。他のかかりつけ医と他科受診は、職員又は家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は家族には電話や口頭で報告し、職員間はケース記録や連絡ノートで共有している。夜間や緊急時にはかかりつけ医との協力体制が整っており、適切な医療が受けられるように支援している。	

みのりグループホーム川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	気があれば主治医に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院が多かった時も、HP相談員と密に連携をとり、退院後もスムーズに生活が送れるよう連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化、看取りについて説明している。又、機能低下が予測される時も、再度今後の見通しとして重度化、看取りを説明している	重度化した場合における対応の指針や、看取りに関する指針に基づき話し合い、同意書ももらっているが、本人や家族の思いにより添って対応している。重度化した場合は、家族と本人の意思を確認しながら、主治医・看護師と連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるように支援している。看取りを今年度2名している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的には行っていないが、その都度OJTを中心に教えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている。	年2回の消防避難訓練を実施している、その中で夜間想定、地震想定による訓練を行っている	年2回、火災報知機の設置業者と昼夜間の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者も参加して実施している。年1回、地震を想定した防災訓練を実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけなどは、その都度気になれば職員同士伝えられている	トイレ誘導時は、耳元で小声で声掛けを行ったり、入浴時には直接肌が見えないように配慮したり、居室に入る時はノックを行ったりとプライバシーに配慮して対応している。また、コミュニケーションを密にし、利用者の意向を声や仕草から汲み取るようにしている。利用者を大事に思い、尊厳を尊重する気持ちが全体に広がり、支援行動に表れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	表現される方へは自己決定しやすい環境を整えている。自己判断が難しい方に関してはご家族と相談し決めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員都合による日程は全くなく、その日の流れは、その日の職員が決めて動くようにしている		

みのりグループホーム川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型など特に気をつけている。又衣服が汚れば着替えている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	嚥下状態に合わせて食事提供している。又3食とも職員が作っている	三食とも手作りで、利用者の好みや季節感を大切に献立を立て、利用者の状態に合わせて形態の工夫をして提供している。利用者は食材の野菜の下ごしらえ、食材を切る等、出来る事を職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで会話をしながら、同じ物を食べている。時にはギョーザやお好み焼きを一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事も時間にこだわらず、食べられるタイミングで提供したり、好きな物を飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科の先生にも来て頂き、必要時対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツはなく、リハビリパンツや布パンツで対応している	排泄チェック表で排泄パターンの把握を行い、利用者の個性に応じた排泄ケアを行っている。なるべく紙おむつ類を使わない方向で考え、布パンツの使用推奨や、可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬による調整を行っているが、最近では果物など薬以外のモノを食べて頂くことで調整を図っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入りたくない入居者の対応に苦慮することもあるが、重度的ななどは体力など判断し、なるべく入浴して頂いている	入浴は週2～3回で、順番や湯加減は本人の希望に合わせて対応し、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、順番や言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ムリに寝かすことはせず、「夜を演出」し、声掛けは少なくして自然に眠たくなるタイミングでケアしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬に変更があれば、副作用などの症状をドクターに相談している		

みのりグループホーム川内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員には難しい事もあるが、行事レクや外出など企画し実行している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全員には難しい事もあるが、行事レクや外出など企画し実行している	近隣の散歩や車で梅の花を見に縮景園に行ったり、桜の花を見に土師ダムへ、マリーナホップ・広島城へ菊花展を見に出かけている。又、個人対応で海釣りや山へマス釣りにカラオケに出かけている。自室の部屋から外に出られ、目の前の畑で野菜への水やりや草取り、収穫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎日外出できる体制にしており、一緒に買い物へ出掛け好きな物を買って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時に限らず、こちらから電話することもある		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	窓からは畑が見えたり、食事作りの音が聞こえたり、家庭的な雰囲気が演出されている	リビングは大きなガラス窓から自然光が差し込み明るく、広々としている。テーブルには季節の花が生けられている。ガラス窓からは季節の景色が広がり、リビングと続くテラスは自由に出入りが出来て開放感がある。室内は対面キッチンに面して食卓や椅子、テレビが配置してある。キッチンからはご飯の炊ける匂いや調理の音が聞こえ、家庭的な雰囲気がある。温度、湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれ気に入った場所があり、それを崩さないように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔馴染みの物を入居時持ち込んで頂いている	写真・テーブル・椅子・飾り物・CDラジカセ・時計・人形・衣装ケース等本人が使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	食器拭きや、畑、水やりなど日課を崩さない様工夫している		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

みのりグループホーム川内

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 みのりグループホーム川内

作成日 平成 30年 3月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	欠員によりこれまで出来ていた個々人との時間が取れていない。	優先順位の明確化、共有	職員会議と勉強会の実施	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。